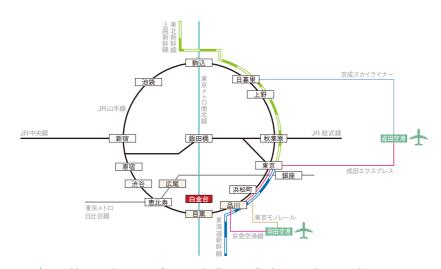


### The Institute of Medical Science, The University of Tokyo

広 尾●東京メトロ日比谷線「広尾駅」そばの〈広尾橋〉から都バス(黒77)または(橋86)目黒駅前行で、〈東大医科研病院西門〉下車 徒歩3分

品 川●JR 「品川駅」から都バス (品93) 目黒駅前行で、〈白金台駅前〉下車 徒歩3分



http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/access/access/

http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/









白金の森の中、都会のど真ん中にあるとはとても思えないほどの閑静な環境。 ここは日本における医科学研究と先端医療開発の中心拠点の一つです。 恵まれた研究環境の中で教育と研究が行われています。

### IMSUTで研鑽し、世界に飛び立ち、勝負する! Go Go Global!

医科学の最先端研究と先進医療のトップレベル研究拠点である東京大学医科学研究所は、大学院学生に、世界を牽引する研究とその醍醐味を肌で感じることのできる学究環境を提供しているものと自負しています。ここでは、世界レベルの研究者らが、最新の設備と洗練された理論と技術を使って、がん、感染症、免疫、再生医療、トランスレーショナルリサーチ、ポストゲノム研究など、時代をリードするプロジェクトを意欲的に推進しています。そしてその中で、様々な本学研究科在籍の大学院学生が学び、研究科の垣根を越えて、研究、討論を展開し、切磋琢磨しながら研鑽に努めています。現代のグローバル化の潮流を受けて、若い大学院学生には柔軟性と開拓心を持ち続けつつ、研究者としての礎を培ってもらいたいと思います。本研究所での世界最先端研究を通して学び、若い知的好奇心を刺激させ、研究への洞察力・推進力を蓄えて、常にグローバル的挑戦を志し、世界に向かって羽ばたくことを期待しています。



医科学研究所 第26代所長 清野 宏

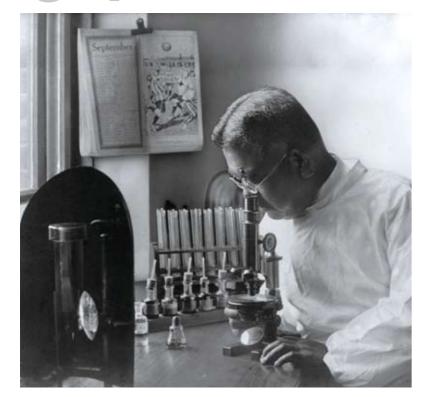
# 医科研から世界に発信する



## 伝統と最先端の融合

1892年以来の伝統と先端性。

東京大学の附置研究所であり、独自性の高い医科学のための研究所です。



### 伝染病克服のために創設

東京大学医科学研究所の前身、大日本私立衛生会附属 伝染病研究所は、当時最大の医療問題であった伝染病を 克服する為に、ドイツで多大な研究成果を挙げた北里柴 三郎博士を所長に招いて創立された民間の研究所でした。 そこでは、伝染病の解明のための医学研究と、病に苦しむ 人々を救うための先端的な医療提供、また伝染病予防の為 の教育が行われていました。時代のニーズの変化により、 研究対象を感染症だけでなく、がんやその他の難病へと 広げ、1967年に伝染病研究所から医科学研究所へと改組 されました。医科学研究所という名称には、東京大学の 附置研究所として、医療応用を目指して自由な重点課題に ついて研究を推進する、という意味合いが込められています。

【研究所の沿革】●明治25年/大日本私立衛生会附属伝染病研究所 設立 ●明治32年/内務省所管の国立伝染病研究所となる ●明治39 年/現在の港区白金台に新築移転 ●大正3年/文部省に移管 ●大正 5年/東京帝国大学附置伝染病研究所となる ●昭和22年/東京帝国 大学は東京大学となる ●昭和42年/伝染病研究所から医科学研究所に 改組 ●平成12年/23研究部を基幹3部門に改組 ●平成12年/近代 医科学記念館開設 ●平成15年/総合研究棟、新病院棟竣工 ●平成 16年/国立大学法人法により国立大学法人東京大学医科学研究所となる

### 附属病院を持つわが国最大規模の医科学の研究所

白金の高台にあるキャンパスには、緑に囲まれ恵まれた環境の中に多くの 建物が建ち、1000人近くの教職員、ポストドクトラルフェロー、大学院学生 らが、医科学研究と先端医療開発、その推進に力を注いでいます。

医科学研究所は、常に人々の健康にとって重要な課題に挑戦し、時代をリード する研究成果を上げてきました。本研究所の大きな特徴は、附属病院を持つ わが国最大規模の医科学の研究所であることにあり、このことが「ベンチから ベッドサイドまで
|、「基礎研究から応用まで
|、の医科学研究を展開する大きな アドバンテージになっています。現在、感染症やがんに加えて、免疫、ゲノム、 発生工学、再生医療などに研究課題を広げ、規模も大きくなっています。そして、 これらの医科学研究の成果を臨床に繋げるトランスレーショナルリサーチを 推進すること、ゲノム情報を基盤とするオーダーメイド医療を実践することを、 研究所の使命として掲げています。ここでは「個人の自由な発想に基づく独創 的な研究」「目的志向型の研究」が両輪として進められ、世界をリードする研究、 医療、及びそれらと密着した教育が展開されています。









# 構成する分野単位で特色ある研究を進めています。





### 医科学研究所の機構組織

医科学研究所の研究部門は、感染・免疫部門、癌・細胞増殖 部門、基礎医科学部門の3つの基幹研究部門と、ヒトゲノム 解析センター、システム疾患モデル研究センター、先端医療 研究センター、感染症国際研究センター、幹細胞治療研究セン ター、国際粘膜ワクチン開発研究センターなどの目的指向型 センター、それに寄付研究部門・社会連携研究部門で構成され ています。各部門・センターは、各々複数の分野から構成され ており、分野単位で特色ある研究が推進されています。また、 コアラボラトリーや共通施設、支援室などが設置され、研究の サポート態勢が整えられています。



### 研究部門

3つの基幹研究部門と特定のミッションを持った研究センター群。

研究部門とセンター

○宿主寄生体学分野 ○ウイルス感染分野 ○感染遺伝学分野 ○炎症免疫学分野 ○ウイルス病態制御分野

### 癌・細胞増殖部門

○癌細胞シグナル分野 ○腫瘍細胞社会学分野 ○分子発癌分野 ○人癌病因遺伝子分野 ○腫瘍抑制分野 ○腫瘍数理分野

### ●基礎医科学部門

○分子細胞情報分野 ○神経ネットワーク分野 ○分子シグナル制御分野

### 附属研究施設

### ● ヒトゲノム解析センター

○ゲノムデータベース分野 ○DNA情報解析分野 ○ゲノムシークエンス解析分野 ○シークエンス技術開発分野 ○シークエンスデータ情報処理分野 ○機能解析イン・シリコ分野 ○公共政策研究分野

### ● システム疾患モデル研究センター

○発生工学研究分野 ○自然免疫研究分野 ○遺伝子操作動物研究分野 ○生殖幹細胞研究分野 ○システムズバイオロジー研究分野

### ● 先端医療研究センター

○分子療法分野 ○細胞療法分野 ○感染症分野 ○臓器細胞工学分野 ○臨床ゲノム腫瘍学分野 ○先端がん治療分野 ○先端医療開発推進分野

### ● 感染症国際研究センター

○高病原性感染症系 ○病原微生物資源室 ○感染制御系 ・微生物学分野 ・ウイルス学分野 ・細菌学分野

### ● 幹細胞治療研究センター

○幹細胞治療分野 ○病態解析領域 ○ステムセルバンク ○幹細胞制御領域 ○幹細胞プロセシング分野

○幹細胞移植分野 ○幹細胞シグナル制御分野 ○幹細胞ダイナミクス解析分野

### ● 国際粘膜ワクチン開発研究センター

○粘膜バリア学分野 ○自然免疫制御分野

● 実験動物研究施設

● 奄美病害動物研究施設

●遺伝子解析施設

疾患プロテオミクスラボラトリー

● アジア感染症研究拠点

### 🌣 寄付研究部門・社会連携研究部門

○再生基礎医科学寄付研究部門 ○先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門 ○インタラクトーム医科学社会連携研究部門 ○抗体・ワクチン治療寄付研究部門 ○RNA医科学社会連携研究部門 ○細菌感染生物学社会連携研究部門

○先端診療部 ○血液腫瘍内科 ○感染免疫内科 ○小児細胞移植科 ○アレルギー免疫科 ○ゲノム診療部 ○緩和医療科 ○放射線科・放射線部 ○外科 ○関節外科 ○脳腫瘍外科 ○麻酔科・手術部 ○抗体・ワクチンセンター ○医療安全管理部 ○医療情報部 ○セルプロセッシング・輸血部 ○中央材料部 ○検査部 ○薬剤部 ○看護部 ○エイズワクチン開発担当

○発生工学研究支援室 ○病理組織サービス室 ○顕微鏡コアラボラトリー ○FACSコアラボラトリー ○スーパーコンピュータ ○動物センター ○研究倫理支援室 ○図書室 ○放射線管理室 ○写真室 ○遺伝子組換え・微生物研究支援室

04

# 03

## 研究プロジェクト

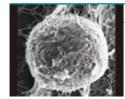
様々な研究分野の研究者が白金キャンパスに集い、 「自由な発想に基づく独創的な研究|と「目的志向型の研究|を展開しています。



### 1. ヒトゲノムを用いた医療開発プロジェクト

ヒトゲノム情報解析に特化したスーパーコンピュータシステムを用いて、個人個人のゲノム、がん細胞のゲノム、システム生物学などの解析を行っています。病気の罹り易さや、薬の効き易さに関するゲノム情報など、個別化医療に役立つ成果をあげています。他にも遺伝子発現にかかわるゲノム領域データベースなどを提供しています。

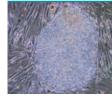




### 2. 感染症克服のための研究プロジェクト

インフルエンザウイルスの増殖・伝播に関する研究、HIV感染に関する研究、また、麻疹ウイルスや単純ヘルペスウイルスの感染機構、宿主応答に関する研究を行っています。新規ワクチンの開発や抗ウイルス薬耐性に関する研究も実施しています。細菌の感染機構や宿主応答に関する研究も行っています。





### 3. 幹細胞の基礎研究と応用研究

造血幹細胞における冬眠シグナル機構の解明や、リンパ球への分化を制御するシグナルの解明、疾患特異的なiPS細胞の樹立とそれらを用いた病態の解明・治療開発研究などを行っています。幹細胞の臨床応用では、京都大学と共同でiPS技術を活用した血小板の作製の臨床開発などを推進しています。

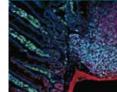




### 4. がん細胞の増殖、浸潤、転移メカニズム解明研究

がん化の鍵となる分子や、がんの増殖、浸潤、転移など、がんの悪性化に関わる分子の機能を、分子生物学的アプローチ、遺伝学的手法、プロテオミクス、モデル動物を用いた解析に加えて、数学を用いたシミュレーション法等を駆使することで解明し、その成果を臨床応用することを目指しています。





### 5. ヒト免疫の獲得・維持機構の解明研究

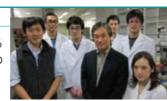
病原体侵入や炎症に対する制御機構の解明や、自然免疫ネットワークの解明などの研究を行っています。新たに創設された国際粘膜ワクチン開発研究センターでは、 腸内フローラや自然免疫細胞を介した免疫制御、さらには次世代型のワクチン生産・ 送達システムを利用した粘膜ワクチンの開発を展開しています。





### 6. 医療開発のモデル動物作製と疾患メカニズム研究

様々な疾患のモデル動物作製を通じて、疾患の発症・進展メカニズムを明らかにする 研究を進めています。共同研究を含めて年間20系統あまりの遺伝子改変マウスの 作製・解析を行い、個体レベルでの遺伝子機能解明の発展に貢献しています。

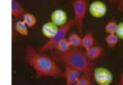




### 7. 先端医療のトランスレーショナルリサーチ

がん治療用の遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いた脳腫瘍の臨床試験実施の他、様々な抗がん機能を付加した治療用ウイルスの開発、新規のがん治療用ワクシニアウイルスの開発研究、腫瘍細胞の活性化シグナルを標的とする分子標的治療薬開発などを行っています。





### 8. 基礎医科学研究

医科学の発展に貢献するため、オリジナルな基礎生命科学研究を展開しています。 シグナル伝達機構などを中心に、分子レベル、細胞レベルとそのネットワーク、 個体レベルまでの多彩な研究を進めています。



# 04

## グローバルな研究・教育拠点

国際的研究活動と学術国際交流を通じて、

医科学の発展と、次世代を担う若手研究者の育成に貢献しています。



### 国際共同研究の推進とグローバル教育の拠点形成

医科学研究所は、文部科学省のグローバルCOEプログラムに採択され、その国際的な研究・教育拠点性を強化しました。世界15カ国以上、30以上の大学・公的機関と共同研究を推進し、科学の発展と人材育成に努めています。

### 国際的研究活動

本研究所では、多くの研究室が海外研究機関との共同研究を進めています。感染症領域では、海外拠点として中国北京市の中国科学院 微生物研究所及び生物物理研究所に日中連携研究室を設置し、本研究所の研究者が2005年度から常駐して日中共同研究を推進しています。その他、ハーバード大学(アメリカ)、スタンフォード大学(アメリカ)、ノースカロライナ大学(アメリカ)、ケンブリッジ大学(イギリス)、パスツール研究所(フランス)、カロリンスカ研究所(スウェーデン)、中国農業科学院ハルビン獣医研究所等と国際的な共同研究を行い、世界最高レベルの研究を展開しています。





### 学術国際交流

本研究所は、フランスパスツール研究所、リヨン高等師範大学、シンガポール国立大学分子生物学研究所、中国科学院等と国際学術交流協定を結び、学術分野での国際連携と人的交流に努めています。東アジア6研究機関で共同開催している「東アジアシンポジウム」や、日本、中国、米国、オーストラリアの大学院学生が中心となって企画・運営を行う「国際学生フォーラム」に毎年参加し、大学院学生や若手研究者が積極的に発表を行っています。また海外の国際学会での発表や、海外共同研究施設への短期派遣を推奨・支援しています。これらの活動は若手研究者の育成に寄与するだけでなく、新たな研究アイディアの創生や国際共同研究の発展に役立っています。





06 07

## 大学院教育

それが医科学研究所の教育ポリシーです。



### 世界で活躍する研究者を育てるための豊かな教育環境

大学院の各専攻カリキュラムに加えて、数多くの多様な教育セミナー、医科学研究所内で開かれるシンポジウム、技術室セミナー、スパコン講習会、 大学院生実習、非医師のための現代医療体験実習など、付加的なカリキュラムを提供し、幅広い知識をもった研究者を育てます。海外で活躍する 研究者によるセミナーが数多く行われ、英語で発表する訓練が行われています。これらにより英語でコミュニケートする能力を養い、博士後期課程 の学生には海外での学会発表を奨励しています。

### 

### 教育セミナー

大学院学生を対象とし、テーマを決めて全国から研究者を招待して開催 される大学院セミナーや、国内外から訪れる研究者を中心とする学友会 セミナー、企業や政府機関などで活躍する方々を講師として招いての キャリアパスセミナーなど、多様な教育セミナーを開催しています。

### 大学院生実習

所内の各研究室が、他の研究室で学ぶ大学院学生のために開催する 実習で、学生自身も企画・実施に携わります。所属する研究室以外の 技術と知識の習得が可能です。

### 

### 経済的支援

大学による学費免除制度の他、博士課程研究遂行協力制度、大学院・ 研究所によるリサーチアシスタント制度、ティーチングアシスタント制度 などの経済的支援制度があります。

### 就職支援・留学支援

キャリアパス支援セミナー等で、企業関係者から生の声を聞くことができます。 また、ホームカミングセミナーなどで先輩たちの体験談を聞くことも可能です。 国際学会・シンポジウムへの参加、共同研究先への短期派遣等の機会を 積極的に利用して、自分の希望に合った留学先を見つけることができます。

### 大学院学生表彰

なんでも相談室

相談することができます。

現代医療体験実習

医療開発を体験します。

英語プレゼンテーションセミナー

海外での研究発表の訓練が行われています。

優れた成果を挙げた大学院学生に対して、「最優秀論文賞」や「優秀論文 賞 | を与え表彰しています。その他、毎年創立記念シンポジウムに合わせ て開催される研究成果発表会で、発表されたポスターの中から優れた ポスターに対して、「創立記念ベストポスター賞」を与え表彰しています。

研究所に付属した病院をもつ医科学研究所ならではのプログラムです。

少人数で医学概論や医療倫理、看護・薬物療法・橋渡し研究・臨床心理

などの講習を受け、実際に病院内で行われている検査、治療、看護、先端

外国人講師によるスライドの作成実習、それを用いた英語での発表練習

を行います。学生を対象とした所内の英語発表コンテストなどもあり、

所内に開設された相談室で、専門の相談員が毎週1日相談者を受け入れ

ています。学業のこと、生活のこと、健康のこと、将来のことなど、何でも



### 医科学研究所には多様な領域の大学院学生が集っています。

出身大学も様々で、背景や専門、年齢に関係なく自由な雰囲気で、勉学・研究に励んでいます。

医科学研究所は独自の大学院組織を持たず、各分野の教員が東京大学の様々な大学院組織に属することにより大学院教育を担当しています。 従って、大学院学生として希望する教員の研究指導を受けるためには、受験生はその教員が所属する大学院・専攻に入学する必要があります。 各教員が所属する大学院組織は、「所属教員一覧」(下記URL)で調べることができます。各研究分野の研究内容は、ホームページのほか、毎年 春に開催される大学院進学説明会で知ることができます。また、希望する教員に直接メールを送って問い合わせたり、予めアポイントメントを とって研究室を見学したりすることで、詳しい研究内容や研究室の雰囲気を知ることができます。受験すべき研究科および受入の確認のために、 受験前に希望する教員と連絡を取ることを推奨しています。

### 所属教員一覧 ▶ http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/education/staff/

### 医科学研究所で研究・教育を受けることができる大学院は9つの研究科

教育・研究の目的

### http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/admission/link\_dep/

新領域創成科学研究科

本研究科を構成する基盤科学、生命科学、環境学の各研究系ならびに情報生命科学専攻に 共通する特徴は、既存の個別学問分野から派生する未開拓の領域を研究・教育の対象とし、 人類が解決を迫られている課題に取り組んでいることです。

http://www.k.u-tokyo.ac.jp/

● 医学系研究科

本研究科は、生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する最先端研究 を推進するとともに、医学系領域の各分野において卓越した学識と高度な独創的研究能力を 有する国際的リーダーを養成することを目的としています。

► http://www.m.u-tokyo.ac.jp/

理学系研究科

②自然科学を中心とする諸分野の研究の第一線で開拓的な研究を行う研究・教育者、⑤国際 的、学際的な研究プロジェクト等の中核となる研究者、©産業界の要請及び諸研究・現業 機関等からの需要に応じた創意ある研究開発者、の養成

▶ http://www.s.u-tokvo.ac.ip/ia/

●農学生命科学研究科

本研究科は、農学の基盤を形成する諸科学に関する世界水準の教育、研究を進め、人類が 抱える食料や環境をめぐる多様な課題に取り組む専門性豊かな人材を養成することを目的 としています。

► http://www.a.u-tokyo.ac.jp/

● 薬学系研究科

本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた 教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献 する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的としています。

► http://www.f.u-tokyo.ac.jp/

● 情報理工学系研究科

情報理工学系研究科は 東京大学における情報科学技術に関する英知を結集1, 21 世紀へ 向けた情報理工学に関する先進的大学院教育・研究の拠点となることを目指し、さらに教育・ 研究の成果を社会へ還元することのできる開かれた研究科であることを目指しています。

► http://www.i.u-tokyo.ac.jp/

工学系研究科

工学とその活用に係わる研究、開発、計画、設計、生産、経営、政策提案などを、責任を持って 担うことのできる人材を育成し、未踏分野の開拓や新たな技術革新に繋がる研究へと果敢 に挑戦し、人類社会の持続と発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

► http://www.t.u-tokyo.ac.jp/tpage/

学際情報学府

学際情報学府は、学生が所属する「教育組織」です。学際性を特色とする情報学について の幅広い視野と、各学問分野での高度な専門的能力を身に付けた人材を持続的に社会に提供 することを目指しています。情報に関する多彩な学問を修得するための「卓越の場所」です。

► http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/

●総合文化研究科

専門教育研究を先進的に発展させ、新しい研究領域を開拓する総合型大学院です。高度な専 門性だけでなく、諸領域の先端分野を広く横断する知識と先見性を備えた問題発掘・解決型 の多様な人材、第一線で活躍する数多くの創造的研究者を養成し、世に送り出してきています。

► http://www.c.u-tokyo.ac.jp/

### 大学院進学説明会

大学院博士課程・修士課程への入学・進学 を考えている方々を対象に、毎年4月に大学 院進学説明会を開催しています。各教員 が研究内容を紹介し、所属する大学院組織 の研究科・専攻について説明します。

説明会の終了後に開催される懇親会(会費 無料)に参加すれば、様々な教員と直接話 をすることができます。日程等の詳細は、 医科学研究所ホームページ内「大学院進学 説明会」のページをご覧ください。







### 入試情報

入試に関する情報は各専攻毎に異なります。 受験を希望する専攻の最新の入試情報を 参照してください。

入試情報 ▶ http://www.ims.u-tokyo.ac.ip/imsut/ip/admission/info/

08 09



### 研究を楽しむ姿勢

### 西村 耕太郎 細胞療法分野

東京大学医科学研究所には、医療、生命科学の様々な分野の最先端研究に 取り組む研究室が集まっています。研究室間の交流もあり、他分野からの 情報、助言が集まる研究環境にあります。私は現在、細胞療法分野研究室に 所属し、細胞周期に関連する研究を行っています。4年間の大学院生活で、 研究を進める上での失敗や困難に幾度もぶつかりました。しかし、研究への 意欲を失うことはなく、課題を乗り越えることはやりがいに繋がりました。 私の支えとなったのは、「研究を楽しむ」という言葉です。それは、先生方の 「将来を担う研究者育成」という視点のご教示から得たものであり、私の学術 研究の道に進む決意をゆるぎないものとしてくれました。大学院生として 本研究所の研究環境に身を置き、得難く有意義な4年間を送ることができた ことに心から感謝しています。

### 学生、留学生、修了者の体験談



### 将来の糧、研究一筋の大学院生活

### 髙橋 悠佳 腫瘍細胞社会学分野

学部の卒業研究は、講義や実習、部活動など様々な側面をもつ大学生活の一部 という印象でしたが、医科研における学生生活はどちらを向いても研究ばかり です。研究に邁進する先生方、先輩方に囲まれている恵まれた環境のなかで、 各研究室が取り組む先進的な研究の渦中に飛び込んで、その一端に関わること は他では得がたい経験です。博士課程に進学して研究の道を歩む人だけで なく、修士課程を修了して就職する人にとっても、刻苦勉励の風土において 時間や労力を惜しまず実験し、結果を考察して、成果を発表するという過程は、 必ず将来の糧になると思います。また、医科研病院で行われる病院見学実習 では、がんの化学療法について、患者さんの治療経過などを踏まえながら説明 を聞く機会がありますが、研究に使用している薬剤が抗がん剤として一般的に 投与されていることなどを学び、基礎研究と医療のつながりを実感できました。

- 1 1号館 2 2号館
- 3 3号館
- 4 4号館
- ⑤ 総合研究棟
- ⑥ ヒトゲノム解析センター
- 7 動物センター
- 8 旧ゲノム解析センター
- 9 クレストホール
- 10 アムジェンホール
- 11 合同ラボ棟
- 12 治療ベクター開発室

### 13 研究棟別館

- 14 臨床研究A棟
- 15 臨床研究B棟
- 16 附属病院 A棟 (病院棟)
- 17 附属病院B棟
- 18 附属病院 C 棟
- 19 白金ホール
- 20 近代医科学記念館
- 21 正門
- 22 西門
- 23 白金台駅 (2番出口) 東京メトロ南北線

○都営地下鉄三田線

### I worked as a physician for two years before entering the PhD course at

疾患制御ゲノム医学ユニット Li Wenwen

IMSUT. As is often the case with young doctors, I wavered in deciding my career path. Especially faced with patients suffering end-stage liver diseases such as hepatocellular carcinoma, I always felt powerless and acutely aware of the limitations of current medicine to help these patients. IMSUT is one of the top research institutes in medical science worldwide, with highly advanced research facilities. Excellent scientists and physicians are cooperatively investigating medical science and technology under the well-established medical principle, "from bench to bedside." I can always get inspiration in exchanging ideas with people from various fields such as basic scientists, physicians, and investigators from pharmaceutical companies. With regard to scientific training, IMSUT periodically holds high level lectures by world-famous professors and also regularly offers students and young scientists opportunities to study abroad. I feel privileged to have learned to remain diligent, modest, creative, and open-minded through the curriculum so far. Therefore I am quite certain that others will benefit equally from the learning environment available at IMSUT if they are eager to improve every skills to attain their future objectives.

研究環境から得られるアイディア



学生、留学生、修了者の体験談

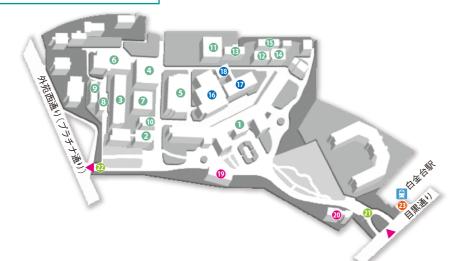
### 身近な指導と主導的研究の実感

博士研究員、フランス/元ゲノムシークエンス解析分野 鎌谷 洋一郎

私は博士課程後期を医科研で過ごしました。医科研を選んだのは、単純に私の やりたい研究をやらせていただける環境があったからです。そこでは大学院生 にも関わらず主導的に研究を行わせていただきました。有能な先生方から指導 を受け、議論することも多くあり、大変充実した研究環境でした。また、医科研内 で異分野間若手の交流の機会もあり、視野が広がり楽しい時間を過ごすこと ができました。研究以外では、白金台という立地なので、研究がうまくいかない 時には西門を出て、なんだか別世界のようなセレブな坂道を歩くと気分転換に なることは間違いありません。私のいたラボからは東京タワーやヒルズを見渡す ことができたので、夜になって「今日は色が違うなあ」などと俗世間に思いを 馳せるのもまた楽しいことでした。そうしてまた気迫漲る研究現場へと戻る あの日々は、今となっては輝くような思い出ばかりです。









Campus event:キャンパスでは、研究の手を休めて四季折々のイベントを開催。大学院学生たちのくつろぎの一時となっています。